



河野節子 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

香取市における外国人政策は

Q 超高齢化、少子化による人口減少の進む日本において、労働力人口の急速な減少は避けられず、外国人を受け入れ共存・共生していかねばならない状況下、香取市在住の外国人の人数、国籍、年齢層、家族帯同者数は。
A 外国人住民登録者数は1992人で、国籍別の人数はベトナムが486人、フィリピンが235人、タイが219人、インドネシアが211人、中国が198人。年齢層別人数は、10歳未満が37人、10代が1

05人、20代が814人、30代が466人、40代が222人、50代が162人、60代が150人、70代以上が36人となります。外国人の扶養として滞在する外国人配偶者や子供の人数は110人、世帯数は64世帯となります。

Q 住民税、国保税の収納率及び加入者数は。
A 住民税の令和6年度決算状況では、香取市全体の調定額が6億6123万6358円、収納額が6億3982万6401円で収納率は96.74%。外国人のみの調定額が1740万2300円、収納額が1295万5300円で収納率は74.45%となります。国民健康保険税の令和6年度決算の状況は、香取市全体の調定額が1億448万7800円、収納額が1億4429万2018円で収納率は95.65%。外国人のみの調定額が3396万6400円、収納額が2668万3800円で収納率は78.56%となります。国民健康保険の加入者数は、1300人程度となります。

Q 外国人の収納率が日本人より低い要因と改善策は。
A 要因として賦課徴収の仕組みや納付義務など、税制度への理解が十分でないことと、日本語による意思疎通に難しさがあることなど、と考えます。

Q 政府は深刻な人材不足に対応するため2028年末までに制度を改正して最大約123万人の外国人受け入れを提示し

ているが、香取市においても、今後さらに外国人材が増えることを想定して、共生社会に向けた環境整備が求められる。そこで、医療、教育環境での課題はないか。
A 香取おみがわ医療センターに確認したところ、問題は発生していないとのこと。外国人の患者は日本人以上に不安だと推察されるため、細かな質問にもより丁寧に答えるよう対応していると聞いています。教育面では、言葉の関係で不登校となっている児童・生徒はいないため弊害はないと考えます。

Q 生活習慣や文化の違いからくるトラブルを無くすためにも、相談窓口の設置や書類の多言語化が必要ではないか。
A 現在行っている組織・機構ヒアリングで、外国人に特化したものがあるかを確認し、必要に応じて相談窓口の設置等について検討していきます。

Q 外国人材と共存・共生するための課題と取り組みに対する市長の考えは。
A 成田空港の機能強化に向けて、各国の方々との関わり合いが増えると思います。私が参画している国際交流協会では、様々な文化交流を実施し、各国の方々の考え方や生活習慣などを尊重しながら、相互理解を深めています。このような活動を踏まえ、多文化共生に着眼しながら、様々な外国語表記や行政サービスの提供など細やかな対応ができるよう検討したいと思えます。



久保木宗一 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

交通弱者に自宅から目的地まで足の確保を

Q 深刻な運転手不足と利用低迷により、バス事業者の撤退及び路線廃止になった。交通弱者である高齢者や学生等の移動手段を確保するため、ドア・ツー・ドア、デマンド交通乗合タクシー「かとくる」の試験運行を開始した。残念ながら香取市全域の運行にはなっていない。実施経過と現状は。
A 市民の移動手段となる公共交通は、バス等の利用者の減少に加え乗務員不足とい

った影響により、バス事業者による路線維持が困難な状況となりました。令和6年10月に、バス路線の統廃合を含む公共交通の再編を実施し、山田地区、栗原地区、佐原地区の一部を対象に、香取市デマンド交通「かとくる」の実証運行を開始しました。運行開始間もない頃から、市民の皆様より運行区域拡大に関する要望があり、香取市では、今年度運行区域の拡大を目指し関係者と協議を行ってきました。年度当初の協議において、実証運行開始から少なくとも1年間、令和7年9月までの利用状況、交通事業者の経営にどのような影響があるかを踏まえた上で、議論を行いたいという交通事業者からの意見を尊重することとしました。その際、国への手続や周知期間の必要性を踏まえ、本年度内の運行区域拡大は難しいとの結論に至り、当初の運行を継続しています。また、「かとくる」の利用状況については、令和8年1月末の登録者数が1557人、令和8年1月の利用者は、区域運行は延べ463人、ルート運行は延べ651人となっております。

交通空白地の解消を
Q 「かとくる」を全域に広げてほしいというのが、市民の希望ですが、なかなかそれがかなわなかった。もともとバス運行が

あった小見川北地区・西地区、津宮・大倉地区もなくなりました。特に利根川北岸地域の交通空白地域である津宮新田、大倉新田、小見川新田、磯山等の新島東側地区の今後の見通しは。
A 「かとくる」の運行開始から1年間の利用状況を踏まえ、関係者と粘り強く協議した結果、運行エリアの拡大について理解を得ることができました。これを受け、令和7年12月、香取市地域公共交通協議会を開催し、令和8年4月から利根川以北の地区、小見川の北地区、西地区、佐原地区の一部を区域運行エリアに追加することの承認を得ました。現在、実証運行エリアの拡大に向け準備を進めています。これにより、香取市の大部分が「かとくる」の運行エリアに含まれるため、交通空白地の解消に寄与すると思えます。

「かとくる」運行エリアの最終目標は
Q 今までなかなか進まなかったが、運行エリアの拡大は、かなり大きな前進だということ、大変評価ができる。今後とも引き続き頑張っていたきたい、一部まだ残っている。最終目標はどう考えているか。
A 香取市地域公共交通計画に基づき、市内全域を目指していきます。